

### 報恩講期間中、御修復ウォークラリーを開催します。

今回の報恩講が、御修復現場を間近でご覧いただける最後の機会になります。そこで、今年の報恩講期間中に御修復現場等をチェックポイントとしたウォークラリーを開催します。御修復状況が分かる全てのチェックポイントを回っていただいた方には、阿弥陀堂彫刻ポストカードを進呈します。皆様、奮ってご参加ください。



※上記写真はポストカードのイメージです。

記

#### 期 日

2014年11月21日(金)から  
28日(金)まで

#### 時 間

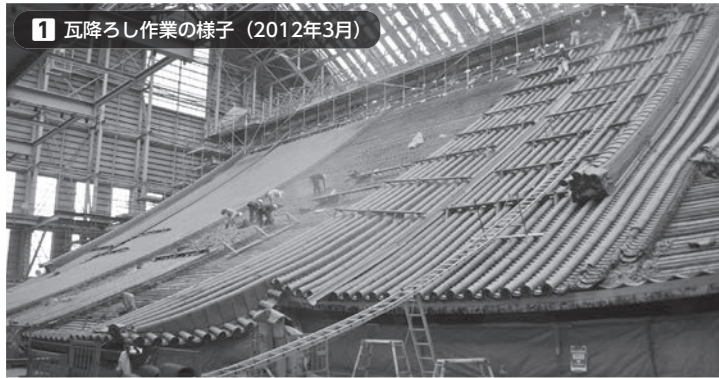
9時～16時

#### チェックポイント

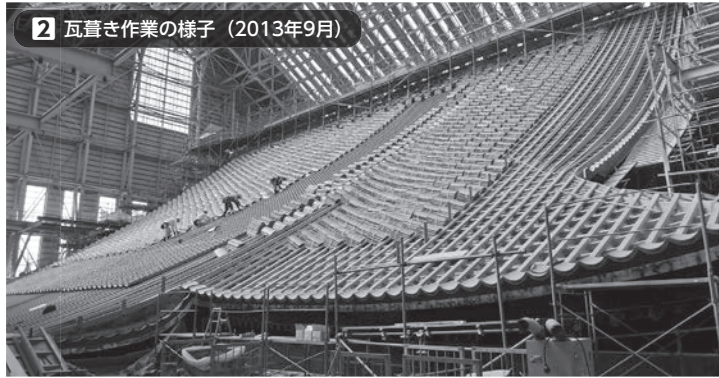
阿弥陀堂素屋根  
参拝接待所ギャラリー  
白洲テント

#### ウォークラリー台紙配布場所

境内白洲テントほか



1 瓦降ろし作業の様子 (2012年3月)



2 瓦葺き作業の様子 (2013年9月)

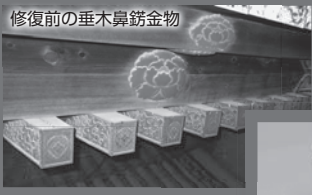


3 完成 (2014年9月)

### 阿弥陀堂御修復「指定寄付のお願い」

※阿弥陀堂・御影堂門御修復懇志につきましても、あわせてご協力をお願いします。

阿弥陀堂の御修復に伴い、「工事」並びに「仏具」を対象とした指定寄付(174口:1口100万円)と垂木鼻 鋳金物(1,240口:1口5万円)を対象とした指定寄付を募集しております。全国の有縁の皆様より尊いご懇念を賜りますよう、何卒ご奨励、ご協力をお願いいたします。



修復後の垂木鼻鋳金物



# 御修復のあゆみ 〱 伝承された先達の願い 〱

## 阿弥陀堂屋根の改修工事が完了

阿弥陀堂の御修復工事は、二〇一二年二月の「真宗本廟阿弥陀堂・御影堂門御修復起工式」を受けて開始され、まず屋根改修工事に着手しました。そして、二〇一三年七月の「阿弥陀堂御修復工事瓦葺き上げ始め式」を経て、本年九月十二日、「阿弥陀堂御修復工事瓦葺き納め式」をもって、約二年半をかけた工事が無事に終了しました。屋根改修工事では、まず屋根瓦の降ろし作業が行われました。これは、約三カ月かけて約十一万枚の瓦全てを一枚一枚、傷みの状況を確認しながらの作業をすすめる大変な工程でしたが、降ろされた瓦を見ると、瓦の裏の見えない部分にまで波の模様が描かれている

など、明治再建当時にひとつひとつ細部の意匠にまでこだわって、丁寧に作られていたことが伝わるものでした。ただ、当時の技術では瓦を焼成する温度が千度を上回ることができなかつたことから、百年もの年月を経た結果、傷みが多く見られる原因となつたことがわかりました。そこで、今回の瓦製作では、当時より二百度ほど高い温度(千五百五十度)で焼くことで、それぞれの形を変えることなく、密度の詰まったより堅くて強い瓦を作る技術改新を行いました。

今回、屋根改修工事を請け負った瓦職人の方々は、明治期の職人の技術に感嘆するとともに、先人の想いを受け継ぎ、現代の技術を加味して後世へ伝える思いを口々に語っておられました。文化庁認定の瓦葺きにおける伝統保存技術者でこのたびの工事を請け負った寺本甚兵衛製瓦の寺本光男氏は、「この門徒の皆様への思いを想像しながら工事をすすめてきていただいた。屋根というものは本来、白洲から見ても一番美しくきれいに見えるよう設計されており、阿弥陀堂の屋根はやっぱり優しい印象がある。私観であるが、まるで阿弥陀様が手を広げて、誰をも受け入れてくださっているお姿のように」と、門徒の一人として感じさせていただいている」と感想を述べられています。



一枚一枚、大切に瓦を葺く

このたびの工事が終盤に差ししかかっている今、この御修復事業をおおして、先達の力強い念仏相続のお心にふれた者として、より一層開法に励み、努力精進するべくあらためて心しなければなりません。